

双京構想

双京構想とは

日本の大切な皇室の^{いやさか}弥栄、そしてわが国の伝統を守り、文化を発展させるため、皇室の方々に京都にもお住まいいただき、政治・経済の首都である「東京」と、歴史・文化の首都である「京都」の双方で、わが国の都としての機能を果たしていくという構想

令和4年度双京構想連続講座テーマ「帝王学の教科書」

① 8月19日(金)

宇多天皇の『寛平御遺誡』

所 功 (京都産業大学名誉教授)

② 8月26日(金)

順徳天皇の『禁秘抄』

久禮 巨雄 (京都産業大学准教授)

③ 9月9日(金)

後水尾天皇の『当時年中行事』

久禮 巨雄 (京都産業大学准教授)

④ 9月30日(金)

杉浦重剛の『倫理御進講草案』

所 功 (京都産業大学名誉教授)

※講師名については敬称略

京都は千年以上もの長きにわたり都として栄え、雅な宮中文化が育まれ、今なおさまざまな形で市民の生活の中に息づくとともに、東京の皇居以外に唯一現役の御所があります。

こうした日本の歴史と皇室と京都との関わりを踏まえ、京都では、皇室の弥栄を願う「双京構想」の実現に取り組んでいます。

この度、双京構想推進検討会議（京都市 京都府 京都商工会議所）では京都アスニーとの連携の下、連続講座を開催します。

会場

京都市生涯学習総合センター
京都アスニー〈4階ホール〉
(中京区丸太町通七本松西入)

時間

各回とも
午前10時～11時30分

連続講座

参加料
無料

● 御予約は

京都市生涯学習総合センター（京都アスニー）で、受け付けます。

TEL (075) 812-7222 FAX (075) 803-3017

ホームページアドレス <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/asny1/top.html>

- ・①、②の講座は完全予約制（7月20日（水）午前10時から受付開始）、定員200名。当日の定員に余裕がある場合でも御予約のない方は受講いただけません。
- ・③、④の講座は事前予約不要、定員500名。直接会場へお越しください。
- ・来館、電話（FAX）又はホームページにて予約してください。
- ・休館日（火曜日、祝日の場合は翌平日）はFAX・ホームページのみ受け付けます。
- ・申込み多数の場合は先着順とさせていただきます。

双京構想連続講座について

京都市総合企画局総合政策室京都創生担当 TEL (075) 222-3375 FAX (075) 212-2902

主催：双京構想推進検討会議（京都市 京都府 京都商工会議所）

京都市生涯学習総合センター（京都アスニー）

後援：関西広域連合



双京構想 連続講座

令和4年度双京構想連続講座

テーマ「帝王学の教科書」



京都産業大学名誉教授

所 功

(ところ いさお)



京都産業大学准教授

久禮 旦雄

(くれ あさお)

令和4年

8月19日(金)

宇多天皇の『寛平御遺誡』

(所 功)

宇多天皇(867~931)は、21歳で即位され、太政大臣藤原基経との確執に苦心しながら、偉大な治績をあげられた。しかも、寛平9年(897)31歳で皇太子(醍醐天皇)に譲位する際自らの学識と教訓を「遺誡」として書き与えられた。

この『寛平御遺誡』には、宮廷における重要な心得が具体的に盛り込まれている。それゆえ、これは「帝王学の教科書」となり、永く学び継がれてきた。その主要な部分を判り易く紹介し解説する。

8月26日(金)

順徳天皇の『禁秘抄』

(久禮 旦雄)

順徳天皇(1197~1242)は14歳で即位され、その後、承久3年(1221)譲位し、父君後鳥羽上皇とともに、鎌倉幕府に対し朝権回復の挙兵を決行された(承久の変)。

これに先立ち、後継者である皇太子懐成親王(仲恭天皇)のためにまとめ上げられたものが『禁秘抄』であり、永く皇室・朝廷で重んじられた。その内容である天皇の日常の心得、儀式に関する有職故実、宮中の宝物・施設・植物の由来を具体的に紹介・解説する。

9月9日(金)

後水尾天皇の『当時年中行事』

(久禮 旦雄)

後水尾天皇(1596~1680)は江戸時代初期の天皇で、徳川秀忠の娘和子(東福門院)を中宮として迎え、朝廷の権限が『禁中並公家諸法度』で規制されるなど、江戸幕府との関係に苦心し、朝廷の行事・文化の復興に尽力された。

『当時年中行事』は、宮中行事の来歴と現状を記し、後水尾天皇の皇子である天皇たちに与えられた。これをもとに後水尾天皇が理想とし、復興しようとした皇室と朝廷のあり方を明らかにしたい。

9月30日(金)

杉浦重剛の『倫理御進講草案』

(所 功)

昭和天皇(1901~1989)は、学習院初等科を経て、大正3年(1914)から7年間、特設の「東宮御学問所」において最高級の帝王教育を受けられた。そこで「倫理」を担当し少年皇太子の帝徳涵養に貢献したのが杉浦重剛(1855~1924)である。

その『倫理御進講草案』が公刊されている。この中に大正4年(1915)京都御所で実施された「御即位式と大嘗祭」の明快な来歴説明もある。そのような事例を紹介しながら、やがて「20世紀の名君」となられた所以を解説する。

— 御来場時のお願いと注意事項について —

- (1) 当日はマスクの着用にご協力をお願いします。
- (2) また、熱のある方や体調の悪い方は参加を御遠慮願います。
- (3) 新型コロナウイルス感染症の状況等に応じて、講座の中止や内容の変更をさせていただく場合があります。
- (4) 京都府南部(京都・亀岡)に特別警報(大雨、暴風、震度6弱以上などの全ての特別警報が対象)が発令された場合と、開講2時間前の時点で京都府南部(京都・亀岡)に暴風警報が発令されている場合は中止とさせていただきます。